

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただけたため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「中学生チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成31年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

5 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	184	77	65	59	1.1	5.8	6.6
	大阪市	—	70	57	54	3.5	8.8	6.7
4月18日	全国	—	72.8	59.8	56.0	2.6	7.3	6.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	191	58.9	48.8	54.2	49.9	50.3	4.5	3.9	12.3	4.3	4.2
	大阪市	—	56.6	45.9	52.5	47.4	46.2	6.0	6.0	13.2	5.9	5.4
6月19日	大阪府	—	57.1	46.2	53.5	47.7	47.0	6.2	4.8	12.9	6.0	5.2
2 年	学校	185	55.1	58.6	62.9	58.6	60.8	7.3	4.1	6.6	3.8	2.6
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月9日	大阪府	—	51.5	49.8	62.9	48.8	54.9	9.0	5.9	8.2	6.6	3.9
1 年	学校	205	69.7	60.0	54.6	66.3	65.9	5.0	4.0	9.6	2.7	2.1
	大阪市	—	—	54.3	—	54.3	—	—	5.4	—	3.9	—
1月9日	大阪府	—	64.9	—	48.8	—	57.5	6.9	—	10.6	—	3.2

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	187	72.4	55.5	65.9	60.5	75.6
10月3日	大阪市	—	67.9	51.7	61.6	55.2	68.3

4 大阪市英語力調査（英検IBA）

学年		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
			国語	社会	数学	理科	英語	—
3 年	学校	182	66.8	62.9	61.1	68.7	30.2	1.1
10月30日	大阪市	—	61.5	55.0	54.6	54.0	—	—

5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 1500m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			国語	社会	数学	理科	英語	—	—	—	—
2 年 男 子	学校	30.19	27.36	45.44	52.74	79.23	—	8.29	194.48	22.34	42.45
	大阪市	28.76	27.39	41.41	51.68	82.53	414.79	8.11	192.16	20.17	41.04
	全国	28.65	26.96	43.50	51.91	83.53	398.98	8.02	195.03	20.40	41.69
2 年 女 子	学校	25.12	25.25	44.68	47.70	52.32	—	9.03	162.13	14.68	50.25
	大阪市	24.12	24.15	45.67	47.38	58.40	307.41	8.92	169.36	12.99	50.13
	全国	23.79	23.69	46.32	47.28	58.31	289.82	8.81	169.90	12.96	50.22

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

本年度の学力・学習状況調査において、国語の平均正答率は77%と、大阪市と比較して+7ポイント、全国と比較して+4.2ポイントと、大阪市平均、全国平均を上回った。

領域別に得点率を全国平均と比較すると、「話す・聞く」について2.1ポイント、「書く」について、6.2ポイント、「読む」について1.8ポイント、「言語と国語特質」について7.2ポイント上回る結果となった。また評価の観点では「関心・意欲・態度」について、全国平均と比較すると4.0ポイント上回る結果となった。さらに、平均無回答率についても、全国平均と比較して1.5ポイント下回る結果となり、解答を求めようとする前向きな姿勢がわかる結果であった。

すべての項目において全国平均値を上回ったことは大きな成果である。これらの結果は、授業規律がしっかりと守られる中で、生徒が自ら主体的に取り組む姿勢が反映されたものと考えられる。また、各授業での発表活動など、様々な言語活動を実践することを通して「思考させる」授業を展開したことなどが表れたものと考えられる。

生徒質問紙から、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」の2項目において、当てはまると肯定的に回答した生徒の割合が、全国平均のそれぞれ11.7ポイント、12.6ポイント上回った。一方課題として、問題形式において短答式の平均正答率は全国平均を大きく上回っているものの69.9%と、伸び悩んでいる。基礎・基本的な知識や理解、また技能について課題が見られる。

<数学>

数学の平均正答率は65%で、大阪市平均を8ポイント、全国平均を5.2ポイント上回っていた。領域別に得点率を全国平均と比較すると、「数と式」について5.3ポイント、「図形」について6.7ポイント、「関数」について2.1ポイント、「資料の活用」について4.0ポイント上回っていた。平均無回答率についても、全国平均と比較して1.5ポイント下回る結果となり、数学においても解答を求めようとする前向きな姿勢がわかる結果であった。

記述式の問題形式においては、全国平均より約7.8ポイント上回っており(本校:54.9%)、論理的に式を立てて計算する技能は身についていると考える。

本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、基礎的・基本的な計算技能、数量関係を読み取り数学的な表現を用いて自分の考えを説明する力の向上が課題である。また、理解しようとする学習意欲や姿勢だけでなく、その先にある数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていかなければならない。

<英語>

英語の大阪市が54%、全国が56%であるのに対し、本校は59%であり、大阪市平均を5ポイント、全国平均を3ポイント上回っていた。また、平均無解答率は、大阪市が6.7%、全国が6.0%であるのに対し、本校は6.6%であり、大阪市を0.1ポイント下回り、全国を0.6ポイント上回った。

領域等別に平均正答率を見ると、「聞くこと」の領域では、大阪市が65.5%、全国が67.9%であるのに対し、本校は67.9%であり、大阪市を2.4ポイント上回り、全国とは同率であった。授業の中で、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えている。また、定期テストや実力テストにおいて、毎回約10分に及ぶリスニング問題でその力を試す機会を設けている。が、「聞くこと」の領域で結果として現れていない。

「読むこと」の領域では、大阪市が53.8%、全国が55.6%であるのに対し、本校は59.0%であり、大阪市を5.2ポイント、全国を3.4ポイント上回った。これは、日頃の授業で教科書本文の読解問題に積極的に取り組ませた成果である。

「書くこと」の領域では、大阪市が45.1%、全国が45.8%であるのに対し、本校は50.3%であり、大阪市を5.2ポイント、全国を4.5ポイント上回った。これは、英作文に取り組む時間を十分に取り、自分の考えや感想を書く時間を授業内に確保した成果であると考える。また、英文を書くということについて、苦手意識を持つ生徒が少なくなってきたことがうかがえる結果である。

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後に向けて】

<国語>

積極的に授業に取り組むことのできる本校の生徒の良い部分をさらに伸ばし、生徒が主体的に学習することができる授業を展開していく。また、複数教員によるサポート体制、個に応じた指導など、様々な生徒のニーズに合った授業を構築する。学習意欲の喚起のために、グループ学習やICTを利用した学習など、自ら課題を発見し答えを見出す学習、仲間と情報を共有する学習、意見を発表する学習を通して、「言語力」や「論理的思考」を育成し、「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、試行錯誤しながらも実生活に結びつく授業を研究・実践し、その取り組みを推進していく。

<数学>

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道を立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。

今後も授業内容の定着をより一層図りたい。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れたい。

<英語>

「聞くこと」の領域では、引き続き、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えていく。

「読むこと」の領域では、引き続き、教科書本文の読解問題に積極的に取り組ませ、さらなる読解力を養う。

「書くこと」の領域では、短い英文から、英作文に取り組ませ、正確に書く力を養う。長期休みでは、自分自身のことについて、まとまった内容で書く英作文課題に取り組ませ、書く力を鍛える。

また、すべての領域において、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、学習支援を行う。

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

本年度の3年生チャレンジテストにおいて、5教科の平均正答率は、大阪府平均の50. 3%を2. 12ポイント上回る、52. 42%であった。

<課題>

○国語科において、文章全体と部分との関係を考え、内容の理解に役立てるといった設問での正答率は、府平均を大きく上回っていた。一方で文脈に即して漢字を正しく読んだり、書いたりする問題の正答率が、府平均を下回っていた。

○社会科においては、歴史上のできごとについての理解を問う問題の正答率に差があり、正答率が府平均を上回ったり・下回ったり問題によるばらつきがみられた。

○数学においては、三角形の合同条件や事象を数学的に解釈し、グラフと対応させて読み取る設問での正答率は府平均よりも高かった。一方、加減乗除を含む正負の数の計算において、計算の決まりに従って計算する問題や多項式を単項式で割る除法の計算問題の正答率が低かった。

○理科においては、物質に関する問題や岩石に関する問題、気象に関する問題での正答率が府平均を上回っていたが、音の大きさや振幅の問題や液体の密度と体積から、混合物の質量パーセント濃度を導く問題、相同器官に関して問われる問題での正答率が府平均を下回っていた。

○英語科では、会話を聞き、内容を理解し要点を適切に把握する点に長けており、正答率が府平均を大きく上回っていた。

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

○大阪市中学校3年生統一テスト

<成果>

[国語]本年度の大阪市統一テストにおいて、平均正答率が大阪市平均の67. 9%を4. 5ポイント上回る、72. 4%であった。

分類別に正答率を大阪市平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「基礎・活用」の分類では、「基礎」の区分で4. 5ポイント、「活用」の区分で4. 2ポイント上回っている。

「領域」の分類では、「話すこと・聞くこと」の区分で6. 0ポイント、「書くこと」の区分で8. 3ポイント、「読むこと」の区分で4. 3ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の区分で2. 4ポイント上回っている。

「観点」の分類では、「国語への関心・意欲・態度」の区分で8. 2ポイント、「話す・聞く能力」の区分で6. 0ポイント、「書く能力」の区分で8. 2ポイント、「読む能力」の区分で4. 9ポイント、「言語についての知識・理解・技能」の区分で2. 7ポイント上回っている。

「解答形式」の分類では、「選択」の区分で、3. 7ポイント、「短答」の区分で2. 3ポイント、「記述」の区分で9. 2ポイント上回っている。以上のように、すべての分類、区分において大阪市平均を上回った。

[社会]

社会科のテストの正答率については、大阪市の平均正答率と比較すると3. 8ポイント上回っている。

分類別に大阪市平均と比較して詳細を見ていくと、「基礎・活用」の分類では、「基礎」の区分で3. 7ポイント、「活用」の区分で4. 0ポイント上回っている。

「領域」の分類では、「地理」の区分で3. 3ポイント、「歴史」の区分で3. 8ポイント、「公民」の区分で5. 8ポイント上回っている。

「観点」の分類では、「社会的事象への関心・意欲・態度」の区分で3. 8ポイント、「社会的な思考・判断・表現」の区分で3. 2ポイント、「資料活用の技能」の区分で2. 7ポイント、「社会的事象についての知識・理解」の区分で4. 2ポイント上回っている。

「解答形式」の分類では、「選択」の区分で2. 8ポイント、「短答」の区分で6. 0ポイント、「記述」の区分で7. 4ポイント上回っている。以上のように、すべての「分類」、「区分」において大阪市の平均を上回っている。

[数学]

数学の正答率は教科全体で65. 9%で、大阪市の平均より4. 3ポイント上回っている。

カテゴリー別の正答率を見てみると、「基礎・活用」の分類では、「基礎」で3. 2ポイント、「活用」で7. 6ポイント市の平均を上回っている。

「領域」の分類では、「数と式」の区分で3. 7ポイント、「図形」の区分で5. 0ポイント、「関数」の区分で7. 1ポイント、「資料の活用」の区分で3. 2ポイント上回っている。

「観点」の分類では、「数学への関心・意欲・態度」の区分で5. 9ポイント、「数学的な見方や考え方」の区分で7. 7ポイント、「数学的な技能」の区分では3. 1ポイント、「数量や図形などについての知識・理解」の区分では4. 7ポイント上回っている。

「解答形式」の分類では、「選択」の区分で5. 4ポイント、「短答」の区分で3. 4ポイント、「記述」の区分で6. 7ポイント上回っている。以上のように、すべての「分類」、「区分」において大阪市の平均を上回っている。

[理科]

理科のテストの得点については、大阪市の平均点と比較すると5. 3ポイント高い60. 5ポイントであった。

分類別に大阪市平均と比較して詳細を見ていくと、「基礎・活用」の分類では、「基礎」の区分で5. 6ポイント、「活用」の区分で4. 3ポイント上回っている。

「領域」の分類では、「エネルギー」の区分で4. 5ポイント、「粒子」の区分で9. 0ポイント、「生命」の区分で3. 1ポイント、「地球」の区分で6. 4ポイント上回っている。

「観点」の分類では、「自然事象への関心・意欲・態度」の区分で5. 7ポイント、「科学的な思考・表現」の区分で3. 4ポイント、「実験観察の技能」の区分で9. 1ポイント、「自然事象についての知識・理解」の区分で5. 4ポイント上回っている。

「解答形式」の分類では、「選択」の区分で5. 0ポイント、「短答」の区分で6. 5ポイント、「記述」の区分で4. 4ポイント上回っている。以上のように、すべての分類、区分において大阪市平均を上回った。

令和元年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

[英語]

本年度の大阪市統一テストにおいて、英語の平均正答率は、大阪市が68. 3%であるのに対し、本校は75. 6%であり、大阪市平均を7. 3ポイント上回った。

分類別に正答率を大阪市平均と比較して詳細を見ていくと、以下の通りである。

「基礎・活用」の分類では、「基礎」の区分で6. 3ポイント、「活用」の区分で5. 8ポイント上回っている。

「領域」の分類では、「聞くこと」の区分で4. 5ポイント、「読むこと」の区分で7. 6ポイント、「書くこと」の分類で9. 1ポイント上回っている。

「観点」の分類では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の区分で6. 1ポイント、「外国語表現の能力」の分類で9. 3ポイント、「外国語理解の能力」の区分で9. 3ポイント、「言語や文化についての知識・理解」の区分で8. 4ポイント上回っている。

「解答形式」の分類では、「選択」の区分で5. 9ポイント、「短答」の区分で9. 0ポイント、「記述」の区分で9. 5ポイント上回っている。以上のように、すべての分類・区分において大阪市平均を上回った。

○大阪市英語力調査(英検IBA)において、

<成果>

大阪市の平均正答率と比べて、語い・熟語・文法は、5. 3ポイント高い66. 8ポイント。読解は、7. 9ポイント高い62. 9ポイント。リスニングは、6. 5ポイント高い61. 1ポイント。英検3級レベル以上の割合は、6. 5ポイント高い68. 7ポイントであった。

英検級レベル別人数分布をみると2級に4人(1. 1%)、準2級に36人(19. 8%)、3級に85人(46. 7%)、その他57人(31. 3%)という結果であった。

<課題>

スコア分布をみるとリーディング・リスニングのいずれもが3級レベルに達しているものの4級レベルに近い受験者の割合が多いことがわかる。分野別の平均正答率を見ると読解やリスニングのポイントが低く、特にリスニングのポイントが低い。3級レベルの生徒のレベルアップを図り、全体のレベルアップを行うことが今後の課題である。